

『大阪SFアンソロジー（仮）』のコンセプト

● 対象となる作品

以下のコンセプトに則った、「2045年の大阪」および「歴史の積み重ね」をテーマにしたSF短編小説

※ウェブ上や非商業同人誌など、いかなる媒体でも既に発表した作品は応募不可とします

● 『大阪SFアンソロジー（仮）』のコンセプト

『大阪SFアンソロジー（仮）』では、「歴史の積み重ね／蓄積」をキーワードとし、舞台を次回の大阪万博の20年後、終戦から100年後にあたる2045年に設定しました。現在の大阪が置かれている状況を考えれば、生活を削り取られていくような日々の中で、大阪には、悪い方向でも良い方向でも、未来への想像力が必要だと考え、未来の大阪を舞台にした作品を集めています。

ある土地を舞台にするということは、その地の固有の歴史や文化と切り離して考えることはできません。都市の歴史は、様々な偶然やその時々々の政治情勢・地理的条件、そこに暮らす人々の生活が複雑に絡み合い、その土地に刻まれていきます。

自己責任論、ポピュリズム、排外主義が台頭する大阪で、それに抵抗する方法の一つは、「個別の言葉」を発し、伝えることではないかと思えます。これらの潮流は、世界を敵・味方に分け、価値観を一元化（儲かる・儲からない等）し、単純化し、歴史を軽視することで力を伸ばしてきました。

これに飲み込まれないために、個別の言葉を書き残し、個々の来歴を積み重ねていく中で、容易に単純化できない複雑さを持った物語を書き残すことが、『大阪SFアンソロジー（仮）』の目的の一つです。

歴史は起こってしまったことであり、変えられるわけではありません。その結果は、そういうものとしてそこにあり、それもまた大阪という都市やそこに暮らす自分を形作るものです。それに向き合わず、相対化しようとすることは、そこに存在した人々に不誠実であるのみならず、自分の立つ場所をも突き崩してしまうことになるのではないかと危惧します。

以上のような考えから、コンセプトでは「歴史」と「積み重なり（蓄積）」を強調した上で、2045年という時点を舞台として設定しました。いわゆる大文字のヒストリーではなく、大阪という都市に暮らす・暮らした自分にとっての歴史、個々の生活を切り捨てることのないストーリー。あなたが今、紙の書籍に書き残したいと思う物語をお待ちしています。

● 避けていただきたい内容

以下の内容の原稿は既に複数作品の収録が決定しているため、避けていただけますと幸いです。

- ・万博をメインテーマにした作品
- ・北摂を舞台にした作品